

作業学習支援案 手織り班

1 単元名「〇〇〇フェスタを成功させよう ～織った布でたくさんの製品を作ろう～」

2 単元について

○作業の概要

手織りは縦糸を通したくしを上下させ、糸を巻いたシャトルを横糸として通すことによって、布を織っていくものである。卓上式の織り機がほとんどだが、足踏み式の手織り機もある。一連の手順を覚えれば、自分のペースで作業を進めることができる。

1 学期は手織りの織り方を知り、丁寧に織ることを目標にしてきた。布を織り上げる喜びを知り、様々な色糸を使い、織り物に対する興味や関心を高めることを中心に行ってきた。2 学期は手織りの量を増やすことに加えて、布端をそろえて、横糸をまっすぐに織るなど細かいところにも注意し、質も高めている。さらに、ミシンを使つての製品化に取り組むなど、生徒一人一人が主体的に取り組むことを目標として行っている。自分の織っている布がしぼり袋やポーチなど、どの製品になるのかイメージをもって織るようにしている。3 学期は手織りの質をより高めながら、製品化を進め、「〇〇〇フェスタ」に向けて販売の準備や計画にも力を入れていく予定である。

○単元設定の理由

5月の作業開始からこれまでに、手織りの「織り機の準備→織り→後片付け」を繰り返し取り組んできた。手織りは様々な色糸を使うので、同系色の配色をしたり、異なった色調の糸を組み合わせてたりすることで、変化に富んだ布を織ることができる。また、継続して布を織ることで持続力や集中力をつけることができる。

本単元では、「〇〇〇フェスタ」での製品の販売を目標にして、布を織り、いろいろな製品を作ることに取り組む。自分たちが製作したものが売れることで喜びを感じ、次の製作への意欲が高まっていく。生徒は手織りの工程を一人一人で行い進め、自分の個性を出した布を織り上げることで達成感を味わうことができる。また、生徒の実態や課題に応じて、布を製品化する工程であるアイロンを使った芯地つけやミシンによる縫製に取り組むことも設定できる。製品を作り上げる過程を間近に見ることで、他の生徒も容易に製品化のイメージがわき、手織りの作業により意欲をもって臨むことができると考える。手織りの生徒もアイロンやミシンの生徒もそれぞれに合った力を発揮することができる。よって、本単元は生徒が分かり、自ら主体的に動けるようになるために適した題材であると考えられる。

○班の構成

本グループは、1年生〇人、2年生〇人、3年生〇人の計〇〇人で構成され、月曜日と火曜日の午前、木曜日の午前・午後と、週に3日間学習に取り組んでいる。昨年手織り班に在籍していたのは、2年生〇人、3年生〇人である。教室の大きさ・人数と個別対応の必要性により、4つのグループに分かれて作業をしている。また、生徒の実態によって個別支援をしている生徒もいる。

3 単元における目標

- フェスタに向けて自分が織っている布が製品となる喜びや楽しさを味わう。
- 各自の目標を立て、丁寧に織ることができる。
- 困ったときなどに質問・報告をすることができる。
- 作業に見通しをもち、時間いっぱい取り組むことができる。
- 織り上げた布を使って製品を作ることができる。
- 織り機の準備・後片付けを自分ですることができる。

4 単元における「子どもが自ら分かり動ける支援」を実践するための状況作りについて

(1) 「子どもが分かり自ら動ける」活動の進め方

①見通しをもてるように

- ・自分が織った布を使って様々な製品ができていく過程を見ることで、手織りの作業に見通しがもてるようにする。
- ・授業のはじめに本時の流れと作業内容、各自の目標を確認する。
- ・模擬時計や絵を使い、作業と休憩の区別がつくようにする。
- ・タイマーを利用し、15分×○セットとし見通しをもって作業に取り組めるようにする。

②分かって動けるように

- ・間違ったときや困ったときに報告ができるように声かけをする。
- ・製品作りについては、ミシンで縫う位置を示した工程表を利用し、自分で確認しながら、作業が進められるようにする。

③意欲をもって主体的に動けるように

- ・織り上がった布を同じ班の友達に見せたり、家庭に持ち帰って賞賛してもらったりすることで励みとする。
- ・作業終了時に織った長さを計測し、確認・発表することで自他の頑張りを認め合う。
- ・生徒が織った布でできた製品を掲示することで意欲を持たせる。
- ・織り上がった布で、アイロンやミシンを使って製品を作り、達成感を味わわせる。
- ・15分ごとに給料袋にシールを貼り、貯まったら強化子を準備する。

④一人一人に、「分かって自ら動ける」作業があるように

- ・一人で手織りを進めることで仕事に慣れ、自分のペースで取り組めるようにする。
- ・生徒の個々の実態に応じて、ミシンによる製品作りなど作業のステップアップを図り、意欲をもって取り組めるようにする。

(2) 「子どもが分かり自ら動ける」を支える場の設定と道具や補助具の工夫

①分かりやすい場の設定

- ・作業の一連の流れを掲示し、作業に対する見通しを持たせ、生徒自身が何をすべきかを分かるようにする。模擬時計や絵を使い、作業と休憩の区別をつける。
- ・各自の織り機の保管場所を決めて、出し入れがしやすいようにする。
- ・生徒の身体に合わせて作業台の高さを調節する。

- ・作業時間に織った長さを計測し、記録することで、仕事量を確認する。
 - ・作業がしやすいように手織り機，アイロン，ミシンを配置する。
- ②一人でも「分かる」「できる」ように道具や補助具を準備
- ・縦糸にシャトルが絡みやすい生徒にはシャトルの厚みを増す。
 - ・変化をもたせるためシャトルに巻く横糸の量を糸巻き回数表を使ってチェックする。
 - ・まとまった色調の布に仕上げるために、生徒別に糸色の候補を数本かごに入れておく。
 - ・紙のものさしで自分の織った長さを測り、次回の目標とする。
 - ・ミシンをかける工程を自分で確認できるように工程表を準備する。

5 単元計画

期 間	主 な 活 動	備 考
11/12～15	布を織る，製品作り(タグ，コースター，マット)	
19～22	布を織る，製品作り(タグ，コースター，マット)	
26～29	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
12/3～6 (本時)	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
10～13	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
17～20	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
1/8～10	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
15～17	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
21～24	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
28～31	布を織る，製品作り(ポーチ，しぼり袋など)	
2/4～6	〇〇〇フェスタ準備(値段付け，掲示物作成)， 販売練習，接客，レジ，呼び込みの練習	
7	〇〇〇フェスタ	

6 個別の支援計画

名 前	これまでの様子と本単元の個別目標	本時の個別の目標	達成への支援や手立て
A さん	<ul style="list-style-type: none"> ・手織りの流れを理解し，一人で作業を進めることができる。 ●横糸の長さに変化をつけることができる。 ●統一感のある色調で丁寧に織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●横糸の長さに変化をつけることができる。 ●統一感のある色調で丁寧に織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸巻き回数表を準備する。 学－6 ・同系色の糸や変わり糸を選ばせ，かごに入れておく。 学－6
B さん	<ul style="list-style-type: none"> ・手織りの流れを理解し，時間いっぱい取り組むことができるが，少し雑なところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●織り目をそろえて丁寧に織ることができる。 ●統一感のある色調で織ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいに織ることができたらその都度賞賛する。 心－2

	<ul style="list-style-type: none"> ●織り目をそろえて丁寧に織ることができる。 ●統一感のある色調で織ることができる。 	とができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同系色の糸や変わり糸を選ばせ、かごに入れておく。 学-6
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に比べて手織りの流れはスムーズになってきているが、手元をよく見ておらず、糸が引っかかっても気付かなかつたり、途中で手が止まったりすることがある。 ●手元をよく見て、時間いっぱい作業をすることができる。 ●困ったときはすぐに報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●手元をよく見て、時間いっぱい作業をすることができる。 ●困ったときはすぐに報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりカードを準備する。 学-2 ・すぐに報告できたら、賞賛する。 心-2
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・手織りは2年目で、配色を楽しんで作業を進めている。以前より織り目もそろってきた。 ●織り目をそろえて丁寧に織ることができる。 ●困ったときはすぐに報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●統一感のある色調で丁寧に織ることができる。 ●困ったときはすぐに報告をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同系色の糸や変わり糸を選ばせ、かごに入れておく。 学-6 ・できたら賞賛する。 心-2
Eさん	※抽出生としているので「7. Eさんの目標と支援の手立て」をご覧ください。		
Fさん	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事への意欲を高めるため、ミシンなどを使って簡単な製品を作り、販売している。「仕事をしてお金をためると好きなものが買える」という仕組みが少しずつ理解できてきている。 ●一定の時間作業することができる。 	●製品を一個作ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な作業内容を提示する。 心-3 ・できた時は賞賛する。 心-2 ・お金がたまったら好きなものを買に行こうと励ます。 心-2
Gさん	・足を組んだり、手織り機に張った縦糸の途中からシャトルを抜き取ったりしていたが、徐々になくなり順調に織ることができている。	●横糸が斜めにならないように注意して織ることができる。	・厚みのあるシャトルを準備し、シャトルを縦糸の途中から抜き取らないようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ●布の縁に糸が余ることがないように織ることができる。 ●横糸が斜めにならないように注意して織ることができる。 		<p style="text-align: right;">☐運-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横糸が平行になるよう、平行線を引いた白表紙を手織り機の下に置く。 <p style="text-align: right;">☐学-6</p>
Hさん	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら席に着き、一定時間座って一人で作業を行うことは難しい。 ・情緒が安定したときは手織りを教師と一緒に短時間行っている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いてみんなと過ごすことができる。 ●作業を短時間教師と行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いてみんなと作業の場を共有する。 ●作業を短時間教師と行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換をするために、廊下などを歩行する。 <p style="text-align: right;">☐心-3・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に作業を行う。 <p style="text-align: right;">☐学-8</p>
Iさん	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のスペースで、大半を教師と過ごす。感覚遊びが多い。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いて、作業的内容に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いて、作業的内容に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子を見ながら、作業に促す。 <p style="text-align: right;">☐心-3・4</p>
Jさん	<ul style="list-style-type: none"> ・準備・後片付けなど意欲的で、終了や困ったときの報告もできる。 ・シャトルに糸を長く巻きすぎる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●シャトルに糸を適量巻くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●シャトルに巻く横糸を適量にすることができる。 ●横糸の二本どりを行い、織りの変化を楽しめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横糸の長さの長短がよい作品になることを伝える。 <p style="text-align: right;">☐学-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に織れたことをほめる。 <p style="text-align: right;">☐心-2</p>
Kさん	<ul style="list-style-type: none"> ・準備・後片付けなど指示待ちである。 ・糸が絡んだときなど、気付いてくれるのを待っている。 ・織り目が斜めになりがちである。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●困ったときの報告ができる。 ●織り目をそろえて丁寧に織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自ら進んで準備・後片付けをすることができる。 ●丁寧に織り、困ったときはすぐに報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横糸が平行になるように、平行線を引いた白表紙を手織り機の下に置く。 <p style="text-align: right;">☐学-6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告を促す。 <p style="text-align: right;">☐学-2</p>
Lさん	<ul style="list-style-type: none"> ・手順に慣れ、意欲的に織っているが、ミスをしたくないという意識が強い。 ・横糸の二本どりや足踏み式の織り機にも取り組み、織りの変化を楽しんでいる。糸選びに助言を欲しがる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●自信をもって丁寧に織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で糸を選び、丁寧に織ることができる。 ●横糸の選び方を考えて、変化のある織り方をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横糸の候補となる糸をかごに準備し、自分で糸を選択させる。 <p style="text-align: right;">☐学-6</p>

M さん	<ul style="list-style-type: none"> ・手織り機の仕組みを理解し、二本どりで手織りに取り組み、織り目のそろった布を製作できるようになってきている。 ●時間いっぱい、集中して布幅や織り目をそろえて織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●配色を考えて二本どりの色糸を選ぶことができる。 ●集中して織り目のそろった布を織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色糸の組み合わせの中から選択するよう促す。 学-6 ・見本の布の織り目を確認する。 学-3
N さん	<ul style="list-style-type: none"> ・しぼり染めなど染色や布巾作り(ミシン)に取り組んでいる。 ・挨拶や報告はまだ促されてからすることが多い。 ●作業工程を理解し、丁寧に作業に取り組むことができる。 ●自分から挨拶や返事をする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アイロンなど安全に使用することができる。 ●自分から報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体にアイロンをかけるように時々声かけをする。 学-9 ・満足して作業を進めることができるように、一人でできる場面を設定する。 心-6, 学-9
O さん	<ul style="list-style-type: none"> ・給料袋を使い、ほぼ時間いっぱい、作業をすることができるようになってきている。 ・作業部屋や布も清潔に取り扱うことができている。 ●布の織り目を均一にすることができる。 ●一人で作業できる工程を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●布端をそろえて織ることができる。 ●織った布の巻き取りが一人でできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布端をそろえるポイントを掲示する。 学-1 ・巻き取り方の手順書を掲示する。 学-4
P さん	<ul style="list-style-type: none"> ・布端や織り目が整い丁寧に作業ができていたが、夢中になって、休憩中も作業をすることがある。 ・シャトルに糸を巻きすぎることがある。 ●体調管理のため、休憩をとることができる。 ●変化のある織り方でたくさん布を織ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●変化のある織り方でたくさん布を織ることができる。 ●体調に合わせて作業をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸をシャトルに巻きすぎないように声かけを行う。 学-2
Q さん	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が丁寧で、ミシンにも意欲的に取り組むことができている。 ・不安やプレッシャーを敏感に感じ、落ちこむことがある。 ●ミシンを使って製品を作ることができる。 ●気持ちが不安定なときは自分の気持ちを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ミシンを使って製品を作ることができる。 ●作業に集中することで気持ちを切り替えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた時はその都度賞賛する。 心-2 ・表情を観察し、必要に応じて声かけを行う。 学-2 ・適当な作業内容と量を準備する。 心-3

7 Eさん（抽出生徒）の目標と支援の手立て

（1）これまでの様子と本単元の個別の目標

○これまでの様子

- ・手織りの作業では横糸の通し方もスムーズで、布目をそろえて根気よく織ることができている。
- ・統一感のある色調を考えて横糸を選ぶこともできている。

○本単元の個別目標

- ・織り上がった布を、ミシンを使って製品にすることができる。
- ・困ったときや、分からないときは尋ねることができる。
- ・一つの工程が終わったら報告し、次の工程を確認することができる。

（2）Eさんを支える状況作り（「自ら分かり動ける」支援のあり方）

（主体的に活動するために）

- ・ミシンの準備や片付けの仕方を覚え、自分でできるようにする。
- ・ミシン操作が一人ででき、真っ直ぐに縫えるように練習用の布で、技術力をつける。
- ・コースターなど小さな製品から始め、自信をつけながら徐々に大きな製品に取り組みせる。
- ・丁寧に縫えたら賞賛する。
- ・織り上げた布で、しぼり袋などの製品を見本や工程表を見ながら一つ作ってみることで、製品を作る喜びを味わわせる。
- ・何枚も同じ製品を作るときは、それぞれの作業工程を縫いやすいように分割する。数枚を同じ工程で縫う作業を繰り返すことで製作しやすくする。
- ・授業のはじめに作業内容を確認する。

- ・個人目標を立てさせ、はじめに確認して最後に反省を行っていくことで、目標を意識させる。

（主体性を支える場の設定や道具や補助具などの工夫）

- ・自分から仕事に取りかかれるように、必要な用具を所定の場所に置いておく。
- ・製作過程を分割し、分かりやすいように見本や工程表を準備する。
- ・シール表を準備し、工程や作業量が分かるようにする。
- ・確実に作業を進めるために、間違ったときや困ったときに質問をしたり、一つの工程が終わったら報告したりする場面を設定する。

8 本時の計画

（1）目標

- ・自分の目標を確認して、織ることができる。
- ・工程に沿って、丁寧にミシンをかけ製品を作ることができる。
- ・終了報告をすることができ、困ったときは尋ねることができる。
- ・根気よく作業を続けることができる。
- ・自分で織り機やミシンの準備、後片付けができる。

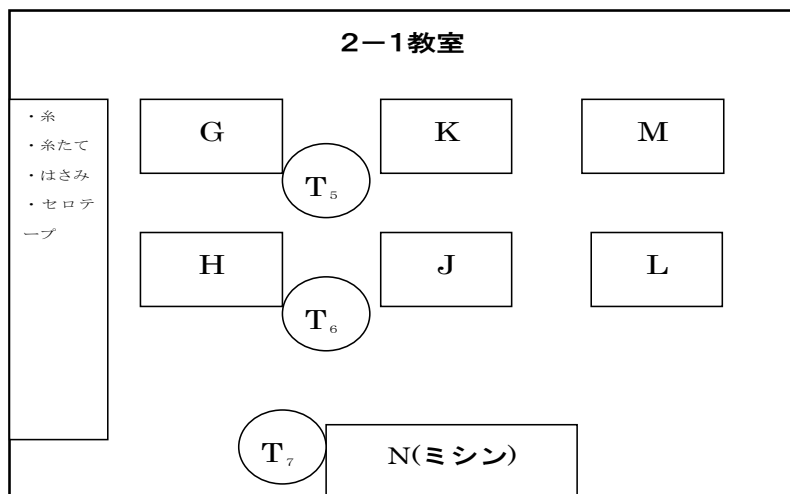
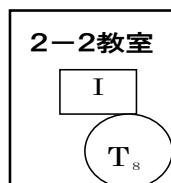
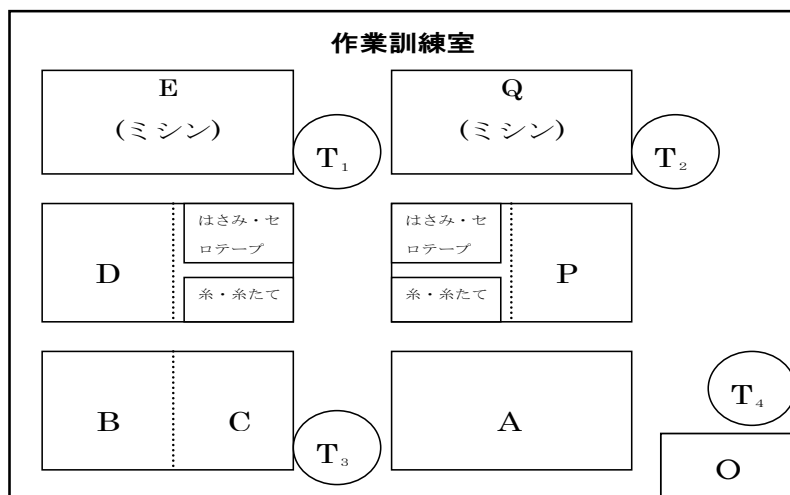
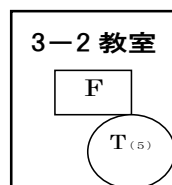
(2) 展開

配時 (分)	○生徒の活動 ■Eさんの目標	◆Eさんの支援上の留意点	◇全体の支援上の留意点
1	○織り機やミシンを準備する。 ■自分でミシンの準備ができる。	◆準備ができたことを報告させる。 学 -2	※授業の前に織り機やミシンの準備をする。
2	○はじめのあいさつをする。		◇当番の生徒は前に出て挨拶をするように促す。 学 -2
2	○今日の作業内容を確認する。 ■自分の作業内容を確認する	◆実物で確認させる。 心 -3	◇手織りの生徒とミシンで製品を作る生徒に分かれることを確認する。 学 -2
5	○本時のそれぞれの活動や個人目標を確認する。		◇黒板の個人目標を教師が読み上げ確認する。 学 -2
30	○それぞれの作業を開始する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">織り機の生徒; A, B, C, D, G, H, J, K, L, M, O, P ミシン; E, Q アイロン; N 個別支援; F, I</div>		◇困ったり、失敗したりしたらすぐに尋ねるように言う。 学 -2
	■分割した工程ごとにミシンで縫う。 工程表・見本	◆ミシンで縫う箇所を確認させる。 学 -3・4・8	
	■一つの工程が終わったら報告し、次の工程を確認する。	◆工程ごとに作業報告や確認ができていない場合には、声かけを行う。 学 -2	
	■縫い終わった箇所にシールを貼る。 シール表		
	○作業を終わる。手織りの生徒は織った長さを測り、ミシンの生徒はできたところを確認する。 紙ものさし・がんばり表		◇手織りの生徒は、終わりの状態が分かるように、くしを休めの位置に置かせる。 学 -2
5	○織り機、ミシンの片付けをする。 ■ミシンを片付け、所定の場所に戻すことができる。	◆できたところまでを教師と一緒に確認する。 学 -2	◇自分で測れない生徒は教師と一緒に測る。 学 -2
		◆安全に気をつけて片付けさせる。 学 -2	◇所定の場所に戻すよう声かけを行う。 学 -1・2

5	<p>○本時を振り返り，自分の目標が達成できたか，何センチ織ったか，何枚縫ったかを報告しよう。</p> <p>■今日の活動を振り返って発表することができる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">作った製品・シール表</p>	<p>◆本時の作業内容や目標が達成できたかを報告させ，みんなに評価してもらい自信をつけさせる。 心-2</p>	<p>◇本時の活動を振り返る。難しい生徒は，話しながら一緒に確認する。 学-2</p> <p>◇本時の作業内容や目標が達成できたかを報告させ，みんなに評価してもらい自信をつけさせる。 心-2</p>
1	○次時の作業内容を聞く。		
1	○おわりのあいさつをする。		

※ 内は活動で使用する道具および補助具を表します。

9 場の設定と配置



10 本単元で使用した補助具や道具の工夫

糸巻き回数表	色系のかご	織機置き場（名前と区分け）
		
<p>変化のある布を織ることができるよう、シャトルに巻く回数を10・20・30回と、変化させる。確認できるようにシールを貼っていく。</p>	<p>縦糸の色を生かした横糸の色選びをするために同系色の色系や変わり糸を入れる。</p>	<p>安全に準備や片付けがしやすいように名前を表示し置く場所を決めている。</p>
分厚いシャトル	紙のものさし	給料袋
		
<p>薄いシャトルでは横糸を通すのが困難な生徒がスムーズに横糸を通すことができるように、通常のシャトルより、分厚くしている。</p>	<p>長さを測るのが苦手な生徒に対し、布の長さを測りやすくした手作りものさし。10 cm, 15 cm, 20 cm, 25 cm, 30 cmの種類がある。</p>	<p>作業の動機付けと、働く（働いて報酬を貰う）という意識付けのために利用したもの。本単元の場合、作業15分ごとにシールを1枚渡す。貯まったら、強化子を準備する。</p>
作業目標	作業と休憩の区別表	工程表・シール表
		
<p>意欲を高めるため、一人一人に合った作業目標を、生徒自身が書いている。</p>	<p>休憩をとらずに作業を続ける生徒に対し、自ら休憩をとることができるように視覚的に示している。</p>	<p>視覚的にわかりやすく端的に示す。シール表と一緒にすることで、手順の理解と意欲を引き出す。</p>

